



おばあさんへの七日間で編み上げた工賃は、金がないので支払えず少年友達仲間、日々の小間使いや雑用労働を手伝い及び捕れた魚で支払った積もりである。

・**投網の管理** 使用後は必ず「シブ」を網に塗って保管する事が肝要。その「シブ」取りと製作もひと仕事です。八月九日頃、豆柿を採り、臼と杵でつぶして、二ヶ月物置小屋で寝かせて出来る上がるのだがその「匂い」が強烈（クサヤに匹敵）又々父親の小事と叱りのカミナリが落ちた。

二年半かかっていたの完成に大いに喜びを分かちあったのもつかの間、終戦（私は中学三年）後まもなく、川の漁業組合管理が厳しくなり無鑑札で、自由に投網漁が出来ない時代となってしまった。

**両親への供養に「川狩り」**

父親の五十回忌と母親の三十七回忌の平成し七年の夏、なつかしの故郷の川で「おき針」と「投網」の漁を楽しみ、往時と両親を偲びました。（写真）



おき針を仕掛ける筆者

**空気銃について「山狩り」**

銃にも癖一人にもなくて七癖、銃にも癖が必ずある。この「癖」のプラス、マイナスをマスターすることで百発百中の夢が叶えられる。当時は物不足で空気銃の弾も買えなくなり、終戦直後の新円切換え円封鎖の時など、旧バラ銭のみを集めて、弾を買った事を思い出します。「今日は三発で三羽のスズメを」と弾不足の為必発必中を期し、夕暮れに余分の弾を持たずに三発で三羽をしとめた自慢談もある。

**鳥獵時で本当に癖に障る三つの時**

（逃がした魚（鳥）は人きい）  
”ア” 惜しい。羽根だけが飛び、逃げられてしまった時  
自分では間違いなく、打ち落としたりと確信し、落下地点に行っても獲物が見つからず逃げられた時  
完璧に命中してその場でバツタリ（即死）高いところ（屋根の上や樹上で止ったまま落ちて来ない時

**弾道が描く放物曲線上にスズメ**  
一日中歩いて、全然鳥の近くにも寄りなかつた帰り道、一羽の鳥が高い梢に止まっていた。距離約四十・五十メートルは裕にあつたと思う。私は、鳥より一メートル位上を狙って撃つと見事に放物線を描いた弾は鳥に命中して落下。丁度傍に居合わせるわせた人もピソクリまさか、あたるとは本人もビックリ。奇跡は存在する。

中学時代の悪るガキも、故郷を離れて五十年の歳月”風雪の青春”が蘇つて来る。以下次号

**第二十一回サラリーマン川柳より**

「空気読め」それより部下の  
気持ち読め

減っていくボーナス年金  
髪愛情

「今帰る」妻から返信  
「まだいいよ」

田満は  
見ざるニ云ざる 逆らわず

「三出し目  
捨てに行かねば捨てられる

「いつ買った」返事は  
「いつも安かった」

**軒昂会PhotoGallery**

本号より「軒昂会PhotoGallery」コーナーを設けます。会員皆様の作品お寄せ下さい。



横浜蘭展 カメラ:Sonya300 F1.7 単焦点レンズ



Forum246 カメラ:Sonya300 超広角レンズ 10MM



ランドマークタワー  
赤レンガ倉庫付近から撮影

**編集後記**  
会報三十号作成にあたり、桜田会員には何時も投稿頂き有難うございます。  
十年前の天田会会報（一九九九年夏号）に西牧さんの興味ある記事を発見しました。早速ご自宅を訪ね軒昂会会報に載せる承諾得ました。二回の連載で紹介いたします。西牧さんの多彩な趣味の一こまを紹介します。  
皆様からの原稿御待ちしています、また写真等の画像大歓迎です。  
尚投稿下さった方には謝礼（図書券）差し上げます。  
本号より「軒昂会フォトギャラリー」を設けました。皆様の作品お待ちしています。写真や画像はメールで送っていただいても、また郵便でも結構です。

**ご提案**  
**会報をネットで配信**  
アマダのパートナーナシップは数年前から印刷物の配達を止めPDFネット配信を行っています。  
軒昂会会報はパートナーナシップがPDF配信以前からホームページで既にご案内しています。  
会員の方々の中でインターネット加入者が増加しています。  
軒昂会会報をインターネットに載せた時点でメールをお持ちの方々にお知らせし郵送に代えさせて頂き、経費節減を図りたいと思います。メールをお持ちでない会員の方には従来通り郵送します。（案）

編集担当